

社会科学習指導案(4年)

1 単元名 特色ある地域と人々の暮らし ～国際交流のさかんな町 太田市～

2 教材観

(1) 学習指導要領上の位置付け

県内の特色ある地域の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること。

(イ) 地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。

(2) 単元の価値

本単元は、太田市の行政や学校、市民の取組を、群馬県や太田市が発行しているパンフレットやホームページ、インタビュー記事、写真、地図帳などの資料を使って調べ、地域の日本人と外国人が共生できるまちづくりに努めていることを理解するとともに、太田市での国際交流の特色を捉える学習である。その価値は以下の通りである。

群馬県には、約 61500 人の外国人が住んでおり、その数は年々増加傾向にある。町の人口の 5.4%、約 12000 人の外国人が住む太田市は、平坦で広大な土地や首都圏へのアクセスのよさを活かし、大手企業の工場が多数立地する工業のさかんな市である。工業が発展する中で、スバルをはじめとした大工場や、関連の中小工場が労働者不足の問題を抱えた。一方で、海外から難民申請者や借金を抱えた技能実習生が職を求めて日本にやってきた。そこで市では、太田市国際交流協会と連携し、多言語による相談体制の整備や行政情報の発信、日本語教室の設置、市民による言語ボランティア活動などを通して、外国人と日本人が、同じ地域の住民として、共に安心して暮らせる地域づくりを推進してきた。太田市の行政や学校、市民の取組を調べ、太田市のまちづくりの特色を考えることを通して、太田市では、国籍や民族の異なる人々が、共生できるまちづくりに努めていることを理解できる。このことは、群馬県の地域的特色を理解する上で重要である。また、グローバル化が進む将来の日本を担う一員としての自覚や、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚を養うことにつながる。

(3) 今後の学習への活用

ここでの学習は、4年「特色ある地域と人々の暮らし ～豊かな自然を守る 尾瀬～」で以下の学習に発展していく。

尾瀬の位置や自然環境、観光業や自然保護に関わる人々の取組を、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめる活動を通して、尾瀬では行政や公益財団法人、地域の人々が協力して、豊かな自然を保護しながら観光業を行い、持続可能な発展に努めていることを理解する学習。

3 児童の実態及び指導方針(36名)

(1) 既習の学習内容や活動

児童は、4年「特色ある地域と人々の暮らし ～伝統を伝える町 桐生市～」において、桐生市の位置や、地域の資源としての織物産業と歴史的背景、それに関わる人々の取組を地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめる活動を通して、桐生市では、伝統的な織物産業を受け継ぎ、現在もそれを保護しながら、まちづくりに努めていることを理解してきた。

(2) 本単元に関わる児童の実態

【知識・技能】

- ・児童は、前単元で桐生市が伝統を受け継ぎ、保護しながら、まちづくりに努めていることを理解している。また、地図帳や各種の資料を基に、調べることができるようになってきている。

【思考・判断・表現】

- ・児童は、地図帳や各種の資料を関連付けながら、まちづくりの特色を表現できるようになってきている。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・児童は、まちづくりの特色について疑問点や調べたいことをもち、主体的に追究しようとしている。

【ICTに係る実態】

- ・児童は、ICT 端末を使用した調べ学習、写真撮影ができるようになってきている。一方で、情報の選択能力やタイピング力は児童によって差が大きい。

(3) 指導方針

- ・太田市では、行政や学校、市民が協力し、国籍や民族の異なる人々が共生できるまちづくりに努めていることを理解できるように、それぞれの立場の取組に関する資料を取り上げ、段階的に追究する学習過程を設定する。
- ・ICT 端末を活用し、正しい情報を読み取ることができるように、必要な資料を精選する。その中で、ICT 端末の活用が苦手な児童がいるため、実物の写真や資料を用意する。
- ・児童が、太田市のまちづくりの特色を主体的に追究できるように、学習課題に対する单元ごとの予想や調べ学習で分かりそうなことを話し合う学習活動を行う。

4 単元の目標

- ・太田市では、行政や学校、市民が協力し、国籍や民族の異なる人々が共生できるまちづくりに努めていることを理解できるようにする。また、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめられるようにする。
- ・太田市のまちづくりについて、行政や学校、市民の協力関係などに着目して捉え、それらの特色を考え、表現できるようにする。
- ・太田市のまちづくりの特色について関心をもち、主体的に追究できるようにする。

5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発	① 特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係など	① 県内の特色ある地域の様子について、主体的に問題解決しようとしている。

展に努めていることを理解している。 ②地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめている。	に着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現している。	
--	----------------------------------	--

6 指導計画(全6時間予定)

○:記録に残す評価 ・:指導に生かす評価

学習過程	時間	○ねらい ・学習活動	・主な指導上の留意点	評価の観点
つかむ	1	○群馬県内の外国人の多い市町村の中で、太田市の様子について課題意識をもつ。 ・太田市内の写真や群馬県の外国人居住数のグラフなどから、外国人が増えている実態や、日本での生活が充実している様子を捉える。	・ブラジリアンスーパーや日本人と外国人の国際交流の様子の写真を提示することで、群馬県の外国人の多さや、生活の充実感、また外国人と共生していくことの必要性を感じさせる。	・思① 発言内容やノートの記事から、太田市や、そこで生活する外国人の様子に着目して、問いを見いだしている。
		【学習課題】外国人が多く生活する太田市では、なぜ国際交流がさかんになり、どのようなまちづくりをしているのだろうか。		
	1	○学習課題について予想や調べる方法を考え、学習計画を明確にする。	・学習問題を追究する見通しがもてるように、学級全体で学習計画を作成する。	・主① 活動の様子やノートの記述から、太田市のまちづくりについて予想や学習計画を立て、追究の見通しをもっている。
追究する	1	○太田市で、なぜ国際交流がさかんになったのか調べ、理解する。	・年表を基に、時系列にそって理解させる。	・知① 発言内容やノートの記述から、太田市の国際交流のあゆみについて調べて、太田市で国際交流がさかんになった要因を理解している。
	1	○学校での取組を、共生できるまちづくりの視点で調べ、話し合う。	・ひまわり教室の写真や職員へのインタビュー記事を提示することで、太田市が日本人と外国人が共に学ぶことができる環境づくりに努めていることを理解できるようにする。	・思① 発言内容や学習シートの記事から、学校での取組を調べ、太田市の共生できるまちづくりについて、考え表現している。

	1	○行政や市民の取組を、共生できるまちづくりの視点で調べ、話し合う。(本時)	・外国人向けの多言語刊行物やホームページ、ボランティア団体の活動に関する資料を提示することで、太田市が市民と協力して、外国人への言語・生活支援を行い、暮らしやすい環境を整えていることを理解できるようにする。	○思① 発言内容や学習シートの記述から、行政と市民のそれぞれの取組を調べ、共生できるまちづくりについて、考え表現している。
まとめ	1	○これまでの学習を振り返り、学習課題の結論についてまとめる。 ・太田市のまちづくりの特色について、関係図にまとめる。	○太田市のまちづくりの特色について、様々な取組のよさを総合して考えることができるよう、観点別に分けた図にまとめさせる。	○知② 関係図の記述内容から、太田市の学校・行政・市民が一体となって、共生できるまちづくりに努めていることをまとめている。

7 本時

(1) **ねらい** 太田市の行政や市民の取組について調べ、話し合う活動を通して、市が共生できるまちづくりのために、日本人と外国人が共に暮らしやすい環境づくりに努めていることを表現している。

(2) **準備** ワークシート (クラゲチャート) ICT 端末 太田市の多言語刊行物

(3) 展開

学習活動	指導上の留意点及び支援・評価
S: 予想される児童の反応	◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価
【単元の課題】外国人が多く生活する太田市では、なぜ国際交流がさかんになり、どのようなまちづくりをしているのだろうか。	
1 本時のめあてをつかむ (5分) S: 今日市の取組と、市民の取組を調べるのだな。 S: 前回調べた学校のように、外国人が暮らしやすくなるための取組をしていると思うな。	○本時の学習の見通しをもつことができるように、やることリストを提示し、めあてを追究する観点と方法を問いかける。
【めあて】共生できるまちづくりのために、太田市や市民はどのような取組をしているのだろう。	
2 一人一人が行政や市民の取組について、教科書や ICT 端末を活用し、調べる。(10分) S: 太田市のホームページには、漢字にふりがながふってある部分がたくさんあるよ。 S: 様々な国の言葉で、コロナウイルスや防災などに関する情報を発信しているよ。	○複数の資料を関連付けて考えたり、多角的によさを考えたりすることができるよう、クラゲチャートを用いる。 ◎学習支援ソフトに調べるためのヒントを提示しておくことで、視点が明確になるようにする。また、実際の多言語刊行物を提示することで、

<p>S:「あゆみの会」というボランティア団体が、外国人に日本語を教えているよ。</p> <p>3 行政や市民の取組について調べた情報を、グループで交流し、補完・修正する。(8分)</p> <p>4 学級全体で、調べた情報を共有し、それぞれの取組のよさを確認し合う。(15分)</p> <p>S: 様々な国の言葉で情報を発信しているから、日本語が苦手でも安心できるね。</p> <p>S: 日本語教室に通って、少しでも日本語が話せるようになれば、生活がしやすくなりそうだな。</p> <p>S: 取組の多くは、日本人にも外国人にとってもよい点があるから、共生できるまちづくりにつながっているね。</p>	<p>調べ学習が苦手な児童も、具体的なイメージがわくようにする。</p> <p>○グループで情報を補完・修正させることで、児童が情報を整理した状態で、全体交流に臨めるようにする。</p> <p>◎それぞれの取組における、市民と外国人との関わりを一つ一つ確認することで、どの取組も双方にメリットがあることに気付かせる。</p> <p>○児童の意見を視覚的に共有しやすいように、ワークシートを ICT 端末で撮影し、学習支援ソフトで画面共有を行う。</p>
<p>5 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。(7分)</p> <p>S: 市や市民は、共生できるまちづくりのために、外国人に日本語や日本文化を教えて、暮らしやすい環境をつくっていることが分かったよ。</p> <p>S: みどり市では、何か国際交流をしていないのかな。</p>	<p>○本時のまとめを記述しやすいように、「共生」「暮らしやすいまちづくり」等のキーワードを提示する。</p> <div data-bbox="818 1111 1431 1319" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇行政や市民が、外国人への生活支援、言語支援を通して、日本人と外国人が共に暮らしやすい環境づくりに努めていることを記述したり、発言したりしている。 <small>(ワークシート、発言)</small></p> </div>

8 板書計画

<p>【めあて】共生できるまちづくりのために、太田市や市民はどのような取組をしているのだろう。</p>	<p>調べ学習やまとめを行う際のキーワード</p>	<p>やることリスト(観点と方法)</p>
<p>前時で使用したクラゲチャート(学校の取組)</p>	<p>本時のクラゲチャート(行政・市民の取組)</p>	
<p>【まとめ】太田市では、市や市民が協力して、日本人と外国人が共生できる、暮らしやすいまちづくりに努めている。</p>		